

一九九〇年六月二十五日  
発行



第73巻 第4号 史学・地理学・考古学

論 説

- 書札様文書の礼紙について……………上 島 有 (1)  
——田中稔氏の礼紙論の検討によせて——
- 北朝隋唐時代における胡族の通婚関係……………長 部 悦 弘 (34)
- 近代英国のレヴァント貿易……………川 分 圭 子 (74)  
——一八世紀の衰退について——

研究ノート

- 尺振八の共立学舎創設と福沢諭吉……………鈴 木 栄 樹 (115)
- 最近のロシア農民史研究について……………梶 川 伸 一 (136)  
——農村共同体を中心に——

紹 介

ディミータル・アンゲロフ著／寺島憲治訳『異端の宗派 ポゴミール』  
(足立広明)

---

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

であるにとどまらず、それ自体一つの「本質」となっていたと見るべきではなからうか。

評者がこのように考えるのも、同じく東方で古代末期の単性論派をはじめ、宗教運動に対する位置づけが変わってきているからである。単性論派も、既存の教会やビザンツ国家への反抗の態度から、安易に下層オリエント住民の民族的・階級的な闘争とされてきたが、今日このような見方は反省を強いられている。これは、階級史観が意味がないとか、社会矛盾が存在しなかったということではない。全ての階級や住民カテゴリーを貫通して、上下あまねく受容すべき宗教によって國家の秩序が整えられていく時、それを無化する動きもまた、階級や住民の色分けを越えて広がりを持つのではないか。それ故に個々の反乱とは容易には結びつかないこともある。こう考えるからである。

このようなことは、しかし逆に評者の類推にしか過ぎない。この点で、ボゴミール研究を實際にされている訳者に、簡単であっても、ボゴミールに対する近年の研究状況や、さらに読むべきものなどの紹介があ

ってもよかった。類書が皆無でもあるだけに、また隣接分野の研究者も、ブルガリア語の文献をおいそれとは当たれないだけに、一層その観を強くする。貴重な労作であることは確実と思われるので、今後これを我國の西洋史研究の中に固定できるような進展を待ちたい。

(A5版 四一五頁 一九八九年  
十二月 恒文社 四五〇〇円)  
足立広明 同志社大学大学院生

日本学術会議だより

— No. 16 —

平成二年二月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、平成元年度に主催の公開講演会を三回開催した。今回の日本学術会議だよりでは、その公開講演会の概要に加えて、本会議が実施している国際的活動などについて、お知らせする。

#### ◇日本学術会議主催公開講演会

本会議では、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させるという本会議の設置目的に沿うための活動の一環として、毎年、公開講演会を開催している。この講演会は、本会議会員が講師となり、学術的香気が高く、かつ、時宜にかかったテーマを選定して開催している。

今年度も三回の公開講演会を開催したので、その概要を以下に紹介する。(中略)

Ⅱ、公開講演会「『人権の歩み』から何を学ぶか—フランス人権宣言二〇〇年を記念して—」

標記講演会は、去る平成元年一月一八

日(土)一三時三〇分〜一七時に、本会議講堂で、約二五〇人の参加を得て開催された。

最初に、弓削達・第一部会員(フェリス女学院大学長)が、「『人権』以前の世界」と題して、人権思想のなかったギリシャ・ローマ時代における人権思想の萌芽とも言うべきものについて、同時代の一哲学者の奴隸等をめぐる精神的苦闘を例にとり述べた。

次いで、大石嘉一郎・第三部会員(明治学院大学経済学部教授)が、「近代日本の人権思想―自由民権論の人権論を中心に―」と題して、主として、明治時代の自由民権運動における人権論について、その特徴、特徴の起因となった当時の社会的条件、それが与えた影響などについて述べた。

続いて、杉本太一郎・第四部会員(東京大学教養学部教授)が、「科学技術と人権」と題して、近年の著しい科学技術の発展によってもたらされた、広い意味での「人権と自由」の様々な様相について、それらの事情と問題点などについて述べた。

最後に、南博方・第二部会員(一橋大学法学部教授)が、「人権の進化と創造」と

題して、現在までの人権の進化の跡を回顧するとともに、最近における人権立法や人権思想を紹介しながら、今日生成しつつある現代型の新しい人権について述べた。(下略)

◇地球環境問題における工学研究の在り方について―第五部報告―(略)

◇平成二年(一九九〇年)度共同主催国際会議(略)

#### ◇二国間学術交流事業

日本学術会議では、二国間学術交流事業として、毎年二つの代表団を外国に派遣し、各訪問国の科学者等と学術上の諸問題について意見交換を行って、相互理解の促進を図る事業を行っている。

平成元年度には、①一〇月二五日から一月四日まで、イタリア及びスイスへ、渡邊格副会長以下五名の会員から成る代表団を、②二月四日から一二日まで、インドへ、大石泰彦副会長以下六名の会員から成る代表団をそれぞれ派遣した。

イタリア及びスイス派遣代表団は、イタリアではイタリア学術研究会、大学・科学技術研究省、ローマ大学、ローマ日本文化会館など、スイスでは、スイス学術会議、

連邦内務省教育・科学局、スイス科学財団、ベルン大学、チューリッヒ大学などを訪問した。

各訪問先では、関係者との間で、それぞれの国の学術研究体制や、科学技術政策などをめぐって意見交換が行われたが、特に、イタリアでは、研究行政の一体化を図るために、大学を文部省の管轄からはずして、大学・科学技術研究省を設置していることについて、また、スイスでは、連邦政府とともに、強い権限を持つ州政府が存在する同国の行政の仕組みと学術行政との関連について、それぞれ熱心に意見の交換がなされた。

インド派遣代表団は、インド国家科学アカデミー、科学産業研究会、計画委員会、科学技術庁、ネルー大学、デリー大学、タタ基礎研究所などを訪問した。

各訪問先では、関係者との間で、科学技術振興方策及び両国間の今後の積極的な学術交流などをめぐって、意見交換が行われ、また、政変の直後ということもあって、選挙の話から、経済力の向上、中産階級の躍進などの政治、経済の問題などについて熱心に意見の交換がなされた。

## 会 告

去る五月二十四日に開催された平成二年度春期定例理事・評議員会において次の案件が承認可決されました。

一、平成元年度決算報告及び平成二年度予算案

一、会費値上げの件

現行会費五、五二〇円を平成二年度後半より値上げ。平成二年度会費を六、二一〇円、平成三年度以降会費を六、九〇〇円とする。

一、役員交替

(1)理事長河内良弘、理事富岡次郎、評議員川口博、楠瀬勝、山岸義夫氏の退任。

(2)理事に青木伸好、前川和也、永田英正(以上、評議員より)、評議員に植松正、河村貞枝、島田真杉、高沢裕一、平雅行、長沼忠兵衛、服部良久、若松寛氏を選任。

(3)常務理事に鎌田元一氏を選任。なお旧理事長河内良弘氏は理事に、旧常務理事金田章裕氏は評議員に復帰。

## 会費値上げについてのお知らせ

既にお知らせいたしましたように、本号より一号当りの会費を一、一五〇円に改定させていただきます。これにより、今年度の会費は六、二一〇円となります。また来年度以降の年会費は六、九〇〇円となります。本会では過去六年間、年会費を五、五二〇円に据え置き、諸経費の節減につとめ、会員の皆様には負担の少なからぬよう努力してまいりましたが、全般的な物価上昇の結果会誌一冊当りの経費も上がり、このままでは史林の刊行にも支障をきたす状態となりましたので、やむをえずこの措置をとらせていただくことになりました。会員の皆様にはよろしく御諒承下さいますようお願い申し上げます。

なお、会費は前納制になっております。本会の活動はすべて会費に依存しておりますので、前納に御協力下さいますようお願いいたします。

一九九〇年七月一日

史学研究会

## 編集後記

梅雨を飛び越して一気に真夏と思っておりましたら、昨日当りから雨が降りだしました。少しは涼しくなるかと期待したのですが、あにはからんや冷房のない編集子の研究室はかえってムシムシして堪えがたい状態です。会員各位にはいかがお過ごしでしょうか。七三巻四号をお届け致します。

本号は、論説三・ノート二・紹介一、大家の玉篇から新進のデヴェュー作までと本誌らしい多彩な内容となりました。

なお、このたび、平成二年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付が内定されました。(雅)

一九九〇年六月二五日印刷 定価二二〇〇円  
一九九〇年七月一日発行 送料五二円

史 林 第七三巻第四号(通巻第三六二号)

京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部内

発行人 史 学 研 究 会

理事長 竺 沙 雅 章  
振替京都七一一五五番

印刷所

中村印刷株式会社  
京都市下京区七条御所ノ内町五〇

史学研究大会・総会のお知らせ

左記のごとく、本年度の史学研究大会および総会を開催いたしますので、多数御出席下さい。

日時 平成二年十一月二日（金）午後一時

場所 京都大学楽友会館

（市バス近衛通下車東入ル）

公開講演

全国産業復興法とニューデール

紀平英作

十五年戦争とアヘン

江口圭一

史学研究会

# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. LXXIII No. 4 July 1990

---

### CONTENTS

#### Articles :

- UEJIMA Tamotsu : Concerning *Raishi* of the *Shosatsuyo-monjo*..... ( 1 )
- OSABE Yoshihiro : A Study of the Marriage of  
the Non-Chinese Nation from the Northern  
Dynasties to the Sui and Tang Dynasties ..... ( 34 )
- KAWAWAKE Keiko : The English Levant Trade and  
Its Decline in the Eighteenth Century ..... ( 74 )

#### Notes :

- SUZUKI Eiju : SEKI Shinpachi's Establishment of the  
*Kyoritsu Gakusya* and FUKUZAWA Yukichi ..... (115)
- KAJIKAWA Shinichi : On Recent Studies of the History  
of Russian Peasants ..... (136)  
—Relationship between Power and the Peasant Community (*Mir*)—

#### Miscellaneous :

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369